

厳しい都市交通施策の運営

縮減傾向にある土木費

仙台都市圏の市町村の土木費の歳出額は、平成10年以降減少傾向になっており、平成13年では約1300億円となっています。これはピークだった平成5年に比べて約2割減少しています。また、総歳出額に対する土木費の割合も年々減少傾向にあり、道路整備をはじめとした施設整備が難しくなっています。

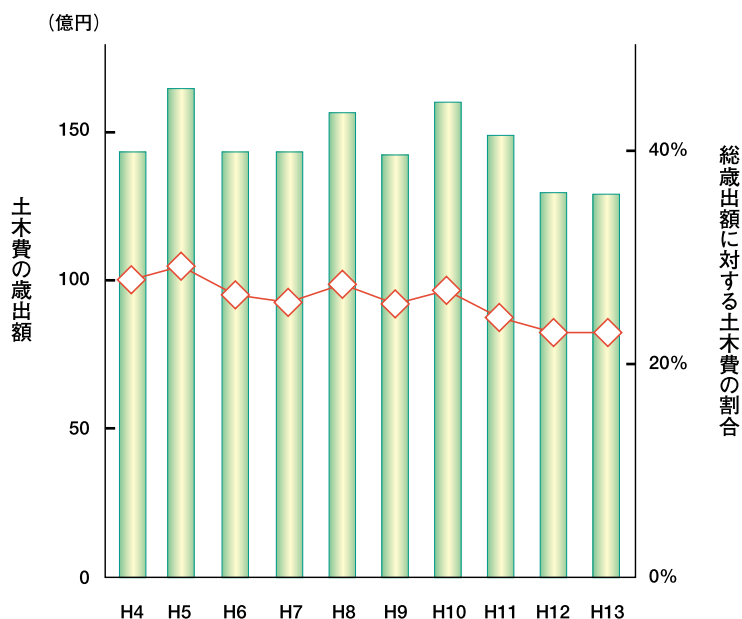


図 仙台都市圏市町村の土木費と総歳出額に対する土木費の割合の推移

出典 宮城県統計年鑑

厳しいバス運営

市営バス事業は地下鉄南北線が開業した昭和62年以降、毎年度、営業収支において多額の赤字を計上し、収入の不足分を一般会計からの補助金で補填せざるを得ない状況です。営業収益は、輸送人員の減少により年々減収となっており、このまま輸送人員の減少が進めば、さらに厳しい経営環境のなかでの運営を余儀なくされることになります。

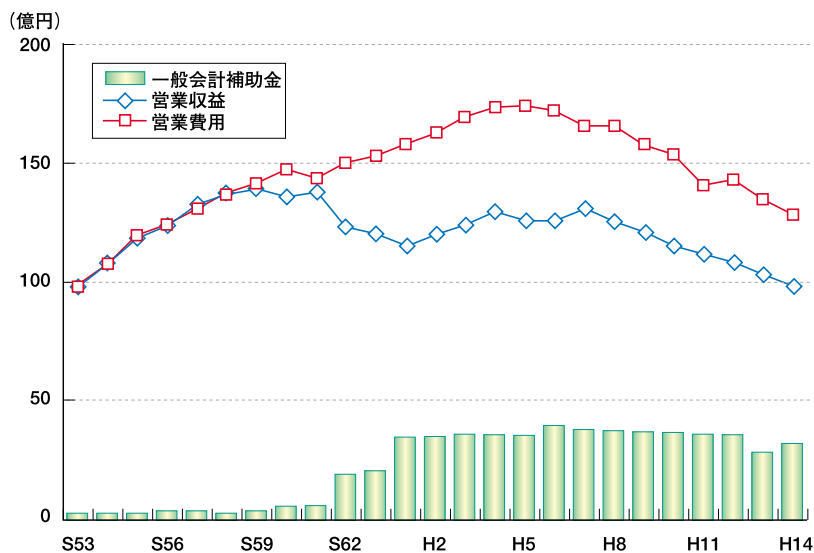


図 仙台市の自動車運送事業収支状況

参考資料 仙台市自動車事業経営改善計画および平成14年度自動車運送事業会計決算